

令和4年度日鋼記念看護学校自己点検・自己評価

評価得点(5:そう思う 4:ややそう思う 3:あまりそう思わない 2:そう思わない 1:わからない)

I 教育理念・教育目的

	下位項目	点検 (評価内容)	認定平均	自己評価
1	法的整合性と独自性	I-1 教育理念・教育目的は本学校の教育上の特徴を示しており、かつ法との整合性がある	4.3	評点平均4.2と評価得点が昨年度を上回った。教育理念などについて理解した教育が出来ていると評価。評価内容のI-4「養成する看護師の質を保証するために、どのような教育内容・教育方法・教育方法を整えようとしているかが述べられている」やI-5「学習・教育観と学生観：看護・看護教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され実際の指針となっている」が昨年度より得点が下回った。このことは、新カリキュラム編成において課題として見直しがなされ、教育理念、教育目的、教育目標、卒業時の到達度との関連性を持たせ学生及び教職員が理解できるようなものとして変更したが、教員全体への周知には至らず、教育理念が明確化された背景について教員と共に学生の理解が深まるよう学校行事などを通して本校の理念や学ぶ意味、行動指針考える機会を提供するなど周知していく。
2	教育理念・目的の意識と周知	I-2 教育理念・教育目的は学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっている	4	
3	看護専門職についての考え方	I-3 教育理念・教育目的は看護専門職についての考え方を明示している	4.4	
4	看護教育についての考え方	I-4 養成する看護師の質を保証するために、どのような教育内容・教育方法・教育環境を整えようとしているかが述べられている	4.1	
5	学習・教育観と学生観	I-5 看護・看護教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され実際の指針となっている	3.7	
6	教育理念・目的の評価	I-6 養成する看護師が卒業時点において、どのような資質を有するか明示し、その資質は社会に対する看護の質を保障するのに妥当である	4.4	
			4.2	

II 教育目標

	下位項目	点検 (評価内容)	認定平均	自己評価
1	教育理念・目的との一貫性	II-1 教育理念・教育目的と教育目標が一貫している	4.5	評点平均4.5と評価得点が昨年度4.1より大きく上回った。教育目標について理解した教育が出来ていると評価。全ての項目の得点が昨年度より上回った。新カリキュラムにより見直しはなされ、実現可能で学生や様々な方が理解できるものとして変更したことが周知されつつある。
2	目標内容の側面と到達レベル	II-2 教育目標は設定した教育内容を網羅し、かつ、卒業時の学生の到達度が示されている	4.5	
3	設定意図とその明確性・実現可能性	II-3 教育目標は設定意図が明確であり、教育活動の指針となっている	4.5	
		II-4 教育目標は実現可能であり、社会の人々や学生が理解できるものである	4.4	
4	教育目標の評価	II-5 看護実践者としての能力を育成する側面と学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	4.5	
5	継続教育との関連	II-6 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標を設定している	4.3	
			4.5	

III 教育課程経営

	下位項目	点検 (評価内容)	認定平均	自己評価
1	教育課程経営者の活動	III-1 教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している	4	評点平均4.1と評価得点が昨年度より上回った。教育計画を基に適切に遂行できている。下位項目の中で平均得点が昨年度より下回ったのはIII-2「教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている教育課程経営者の活動」、III-20「教員が自ら成長できるよう、自己研鑽システムを整えている」で、特にIII-19「教員が授業準備のための時間を取る体制を整えている」の数値が下回った。このことはコロナ禍におい
		III-2 教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	3.8	
2	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	III-3 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	4.1	
		III-4 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	4.1	

		Ⅲ-5	学生の成長について、明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	3.9	て地域の感染状況によって講義や実習方法の変更や非常勤講師との調整など即時的に対応する必要などがあり、教員の業務量の増大や負担感などが経年に及んでいることによるものと推察する。これらを一気に解決することは容易ではないが、covid-19の状況もふまえ改善に向けて計画的に進めていく必要がある。一方、下位項目7「学生の看護実践体験の保障」について、評価内容の全項目が昨年度を上回った。このことはcovid-19の影響による実習受け入れの状況が感染対策を講じながら臨床の場で安定的に実践できたことによることが推察される。今後もcovid-19の地域の感染状況の経過をみながら実習受け入れ施設との調整を継続していく。
3	科目・単元構成	Ⅲ-6	明確な考え方と根拠をもって科目と単元を構成している	4.1	
		Ⅲ-7	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある	4.1	
		Ⅲ-8	構成した科目は看護師を養成するのに妥当である	4.3	
		Ⅲ-9	構成した科目は本学校の特徴をあらわしている	4.4	
		Ⅲ-10	単位履修の方法とその制約について教員・学生の双方がわかるように明示している	4.3	
4	教育計画 1)単位履修の考え方 2)科目の配列	Ⅲ-11	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている	4.1	
		Ⅲ-12	単位履修生の考え方を踏まえつつ、看護師になるための学修の質を維持できるように科目の配列をしている	4.1	
5	教育課程評価の体系 1)単位認定の考え方 2)評価の体系	Ⅲ-13	単位認定の基準は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	4.6	
		Ⅲ-14	単位認定の方法は看護師に必要な学修を認めるものとして妥当である	4.6	
		Ⅲ-15	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	4.6	
		Ⅲ-16	教育課程を評価する体制を整えている	4.4	
		Ⅲ-17	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている	4.3	
6	教員の教育・研究活動の充実 1)教員の専門性を高める体制 2)教員の自己研鑽を保障するシステム 3)教員の相互研鑽を保障するシステム	Ⅲ-18	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	3.8	
		Ⅲ-19	教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている	2.8	
		Ⅲ-20	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽システムを整えている	3.4	
		Ⅲ-21	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	3.3	
7	学生の看護実践体験の保障 1)実習施設の利用と開拓 2)実習目標達成のための実習施設との協力体制 3)臨地実習指導者と教員の協働 4)学生からケアを受ける対象者の権利の尊重	Ⅲ-22	臨地実習施設は、本学校の個別の教育理念・教育目的・教育目標を理解している	3.9	
		Ⅲ-23	臨地実習施設は、学生の看護実践の実習を支援する体制を整えている	4	
		Ⅲ-24	臨地実習における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員それぞれの役割を明確にしている	3.9	
		Ⅲ-25	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている	4.1	
		Ⅲ-26	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している	4.5	
		Ⅲ-27	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて学生への指導を計画的に行っている	4.4	
		Ⅲ-28	臨地実習において学生が関係する事故を把握・分析している	4.5	
		Ⅲ-29	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている	4.4	
				4.1	

IV教授・学習(講義・演習・実習)・評価過程

	下位項目	点検 (評価内容)		評定平均	自己評価
1	授業内容と教育課程の一貫性	IV-1	授業内容は、教育課程との一貫性があり、当該学生の特徴に合わせた内容となっている	4.1	<p>評点平均4.1と評価得点が高い傾向であり昨年度と同得点であった。教育計画を基に適切に遂行できている。下位項目の中で「授業展開方法」や「目標達成の評価とフィードバック」にCD評価が散見され昨年度より得点が下がっていた。その中で評価内容IV-8「学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者や教員間の協力体制」、IV-13「教育目標の達成状況を多面的に把握している」は昨年度より得点が上がったが平均得点が4.0を下回った、これらのことは、COVID-19の影響により急な実習方法の変更により協力体制を整えていくための調整に苦慮したことが推察される。また、教育目標の達成状況の多面的な把握については、学生および教育活動の多面的評価へ向け、多様な評価の方法を取り入れられるよう評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画を検討し、目標の達成状況を捉えられるようにしていく。</p>
		IV-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べている	4.1	
2	看護学としての妥当性	IV-3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある	4.1	
3	授業内容間の関連と発展	IV-4	学生の理解を効果的に促すために、授業内容の重複や整合性・発展性等が明確になっている	4.1	
4	授業の展開過程 1) 授業形態の選択 2) 指導技術の工夫 3) 指導技術の工夫 4) 教材・教具の活用と開発	IV-5	授業内容に応じた授業形態(講義・演習・実験・実習)は選択している	4.4	
		IV-6	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画に明示し、実践している	4.1	
		IV-7	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	4	
		IV-8	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、実習指導者や教員間の協力体制を明確にしている	3.8	
5	目標達成の評価とフィードバック 1) 評価の計画性 2) 評価結果の活用	IV-9	評価計画を立案し、実践している	4	
		IV-10	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	4.2	
		IV-11	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	4.1	
		IV-12	学生による授業評価の機会を保証している	4.4	
		IV-13	教育目標の達成状況を多面的に把握している	3.8	
		IV-14	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している	4.4	
		IV-15	単位認定の実施において公平性が保たれている	4.2	
6	学習への動機づけと支援 1) シラバスの提示 2) 学習への支援体制	IV-16	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある	4.2	
		IV-17	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機付けと支援になっている	4	
				4.1	

V 経営・管理過程

	下位項目	点検 (評価内容)	評定平均	自己評価
1	設置者の意思・指針	V-1	4.7	評点平均4.2と昨年度の評価得点を上回った。学校の組織体制や意思決定システム、役割機能などについて理解した教育が来ている。しかし、下位項目の「施設・設備の整備」について得点が低値であり、施設の老朽化に伴い施設管理における整備が滞り、課題となっている。今後も学生の学習環境を整えようと職員の仕事が円滑に遂行できるよう対応について検討していく。また、施設整備に関する計画的な対応が可能となるよう検討していく必要がある。学生生活への支援として、災害時対応の行動レベルのマニュアルを作成し災害対策の整備点検を行ったが、令和4年度もCOVID-19感染状況が落ちつかず訓練の実践段階に進めることが出来ず訓練が延期となっている。今後、感染対策を講じながら訓練の実施に向け検討し安全確保体制を整える必要がある。令和4年度も感染予防については、日鋼記念病院との連携により常に最新の情報を基に、学生の感染予防に対する意識向上を図ることで一定の成果を得ることができた。また、病院の感染対策に関する委員会に教務主任も参画し、情報共有しながら感染対策を講じている。さらに、地域への学校の情報提供については、コロナ禍であるがwebによるオープンスクールを開催するとともに、個別に学校見学を受け入れ当校の魅力をアピールすることができた。また、病院の広報部とも連携しFMビュー等のラジオや病院ツイッター等にも取り上げていただき活動の拡大に努めた。また、胆振地域はもとより周辺地域への学校訪問、進学相談会を通して当校の説明を行った。次年度は個別見学会と共に対面のオープンスクール開催に向けて検討していく。
		V-2	4.2	
2	組織体制 1)意思決定機関・意思決定システムの明確性 2)組織の構成と教職員の任用の考え方 3)教職員の資質向上についての考え方と対策	V-3	4.2	また、令和2年4月から始まった新しい修学支援制度の対象校として学生への経済面の支援を充実させた。今後も高等学校での説明を行うとともに、在校生・保護者への説明(文書ならび口頭)など継続して制度の周知に努めていく。
		V-4	4.1	
		V-5	4.7	
		V-6	3.7	
3	財政基盤	V-7	4.2	本校の運営においては、設置者の将来構想のもとに運営の中期・短期計画、年間計画を立案し、実施・評価を行っている
		V-8	3.9	
4	施設・設備の整備 1)整備の考え方と計画性 2)看護学の発展や医療・看護へのニーズ、学生層の変化に対応する整備 3)学生および教職員のための福利厚生の整備	V-9	3.6	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・評価を行うための知識と方法を持っている
		V-10	3.4	
5	学生生活の支援 1)学修継続への支援体制 2)学習困難への支援体制 3)社会活動への支援体制 4)卒業後の進路選択への支援体制	V-11	4.3	自己点検・自己評価体制を整え、運用している
		V-12	4.5	
		V-13	4.2	
6	学校の情報提供 1)教育活動に関する関係者への情報提供 2)広報活動	V-14	4	評価の機能は、カリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、教育理念、教育目的、教育目標を維持改善するものとなっている
		V-15	4.3	
7	学校の運営計画と将来構想 1)年間の運営計画と評価 2)短期計画・中・長期計画	V-16	4.3	
8	自己点検・自己評価体制 1)自己点検・自己評価の組織 2)資料・データの収集・蓄積 3)資料・データの分析・解釈 4)課題や改善点への取り組み	V-17	4.3	
		V-18	4.4	
		V-19	4.1	

4.2

VI 入学

	下位項目	点検 (評価内容)		評定平均	自己評価
1	入学者の選抜の考え方と教育理念・教育目的との一貫性	VI-1	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べている	3.8	令和4年度も看護学校を取り巻く環境は、少子化、大学志望により受験生が年々激減しており入学者確保に難渋している現状は変わらない。受験者数・入学者数の動向などや効果的な広報活動の工夫がある。入学者選考方法、試験内容の検討を継続して行う。
2	選抜の公平性	VI-2	入試委員会を組織し、守秘義務を徹底し不正等が起こらないように周知徹底している	4.5	
3	選抜方法の妥当性	VI-3	入学者状況・入学者の推移について分析し、入学者選抜方法の適切性を検討している	3.8	
4	学生募集活動への取り組み	VI-4	受験生の動向や背景を分析した結果を活かし、積極的に募集活動を行っている	4.5	
				4.2	

VII 卒業・就業・進学

	下位項目	点検 (評価内容)		評定平均	自己評価
1	進路選択の状況と教育理念・目的との整合性	VII-1	卒業生の到達状況、就業・進学状況を分析した結果は教育理念・教育目的との整合性がある	4	卒業生の6～7割が日鋼記念病院に就職しており、以前は直接近況報告に来校する卒業生から口頭での情報収集が主であったが、コロナ禍により卒業生の訪問を制限し交流が持てない状況が続いているため、今後、感染状況を鑑み卒業生の動向について調査体制を整える必要がある。今後、新たなカリキュラム編成に基づいて、見直した教育目標、学年別到達目標や評価方法を検討する必要がある。まずは、卒業生の実践力や卒業教育の実態調査の把握に向けて就職先看護部とも調整し検討する。
		VII-2	卒業生の到達状況を捉える方法を明確にし、それを計画的に行っている	3.5	
2	卒業時の看護実践能力及び卒業後の活動状況の評価	VII-3	教育を改善するために卒業生の就業先との情報交換や調査等ができる体制を整えている	3.7	
		VII-4	卒業生の活動状況を把握し、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している	3.5	
				3.7	

VIII 地域社会・国際交流

	下位項目	点検 (評価内容)		評定平均	自己評価
1	地域社会と交流するための体制 1) 地域社会への貢献とニーズの把握 2) 地域社会における資源の活用	VIII-1	社会との連携に向けて地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	3.9	国際交流のための体制整備の進捗が滞っているが、今後、海外で就業するために必要な手続きについての取り決め事項等の明文化の整備や海外で活躍する卒業生の動向を紹介し、国際交流に向けた情報を教職員と共に学生へ発信していく機会について検討する。
		VIII-2	本学校の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、本学校から地域社会へ情報を発信する手段を持っている	4	
		VIII-3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本学校の学習・教育活動に取り入れている	4.1	
2	国際交流のための体制 1) 学生・教員の国際的視野を広げるためのシステム 2) 留学生の受け入れ等に関する対応	VIII-4	国際的な視野を広げるための授業科目を設定している	3.8	
		VIII-5	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っている	3.2	
		VIII-6	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制がある	3	
				3.7	

IX 研究

	下位項目	点検 (評価内容)		評定平均	自己評価
1	教員の研究的姿勢の涵養	IX-1	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援しあう文化的素地がある	3.3	コロナ禍という状況ではあったが、令和4年度も研究活動を看護研究グループを中心に行っている。授業担当の状況により全教員が研究活動を行えていない状況もあり、研究活動の保障や助言・検討する体制の整備が滞っている。今後も全教員が取り組めるような支援を検討していく。
2	教育の研究活動の保障と評価 1) 研究活動の保障 2) 研究活動の評価	IX-2	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している	3.2	
		IX-3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っている	3.3	
				3.3	